

ぼくは、ロボットが大好きです。

五年生のころから宮崎科学技術館でロボットクラブという講習を受講し、実際にロボットを動かしてみて、とても興味を持ちました。自分で組み立てたロボットに、自分で考えたプログラムを覚えさせて、自分の思い通りに動いたときは、とても面白く感じました。それからもっとロボットが好きになりました。

今年の夏に、ぼくは、あるロボット大会に参加しました。その大会は、自分で組み立てたロボットに、あらかじめ決められたミッションをクリアさせ、点数を競うというものでした。そのミッションの内容というのは、ロケットを宇宙へ飛ばすことを想定し、三つのブロックをロケットに見立て、それぞれのブロックを拾い集めて組み立て、発射台エリアに立てるというものでした。

この大会に向け、ぼくたちのチームは、5月ごろから一生けん命努力し、見事宮崎県大会小学生の部で優勝することができました。

この大会以来、ぼくは、宇宙とロボットの結びつきについて考えるようになりました。そしてぼくは、ロボットの宇宙飛行士がいればいいなと思うようになりました。

今、たくさんの宇宙飛行士が地球を飛び立ち、宇宙ステーションなどで実験や観測を行っています。若田光一さんなど日本人宇宙飛行士もたくさん活やくしています。しかし、人間の宇宙飛行士を育成するには、たくさんの訓練やたくさんの勉強、たくさんの時間が必要であることを知りました。さらに、その中で宇宙に出て活やくできるのは、大勢の人の中から選ばれた人だけだそうです。

もし、ロケットが爆発したらせっかく育成した優秀な宇宙飛行士がいなくなるし、その宇宙飛行士の家族もとても悲しむと思います。

だから、人間の宇宙飛行士の代わりに、ロボット宇宙飛行士が宇宙に行き、活やくできればいいなと思いました。

そこでぼくは、ロボットの宇宙飛行士に、次のような仕事をさせることを考えました。

ロボットは、主に宇宙ステーションで実験などを専門に働き、新たな実験を始めるたびにその実験のためのプログラムを地上から受け取り、そのプログラム通りに行動します。人間の頭のう代わりに高性能コンピューターを四つ、うで代わりにアームは八つとりつけます。

充電などの基本動作は自力で行い、毎日実験結果を地球に転送します。

このロボットには、さまざまな利点があります。一つ目の利点は、コンピューターが四つ、アームが八つあるので、一度に人間の四倍の作業が可能になることです。また、ロボットなので、人間の宇宙飛行士よりはるかに早く育成でき、場合によっては、何体も製造することもできます。そして、宇宙分野のみならず、医りょうや福し、災害救助などの分野にも応用することができるなど、さまざまな利点があります。

この前、広島県で大きな土砂くずれが起こり、たくさんの人が亡くなるという災害が発生しました。その事こで救

出活動をしていた消防士が土砂くずれにまき込まれて死亡したとの悲しいニュースを見ました。ぼくのお父さんも消防士で、火事の現場にかけつけ、命がけで火を消して人命を救っています。

もし、お父さんが広島県の消防士のように救出活動中に亡くなってしまったら、とても悲しいです。

そこで、人が近づけない危険な場所でこのロボットが活やくすれば、たくさんの方が助けられるし、消防士も安全だと思います。このように災害救助の現場でもこのロボットの技術が応用できると思います。

しかし、問題もあります。

たとえば、ご作動などです。宇宙ステーションで実験中に暴走して宇宙ステーションのかべに穴を開けてしまうと、たちまち大さん事になってしまいます。また、実験中に動きを止めてしまったら、きちんとした実験ができません。

また、悪用防止の課題もあります。

このロボットは、高性能コンピューターが四つあったり、アームが八つあったり、とても便利なロボットですが、使い方をまちがえたり悪い方向に使ってしまうと、人を傷つけるきょう器にもなりかねません。

ロボット宇宙飛行士を実現させるなら、それらの問題を解決させる必要があります。

このようにロボットは、問題もありますが、人のできないことをしてくれるたのもしい存在です。しかし、そのロボットを作り、動かすのは人間です。たとえロボットが人工知能を持ち、自分で動いたとしても、そのロボットを作るのは、やはり人間なのです。

そのことを忘れず、ロボットと付き合っていくことが重要だと思います。

そして、いつか自分の作ったロボットが宇宙に飛び立ち、その技術でみんなが笑顔になってくれるといいと思います。

その実現に向けて、これからもっと勉強をがんばっていきたいです。